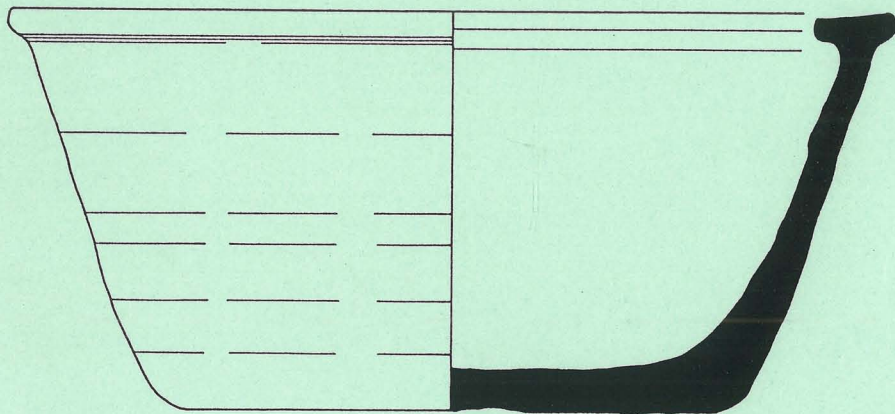


南柳遺跡第6次調査
(柳字大市田の投げ石所在確認調査)

—太子町総合運動公園建設に伴う遺跡発掘調査—

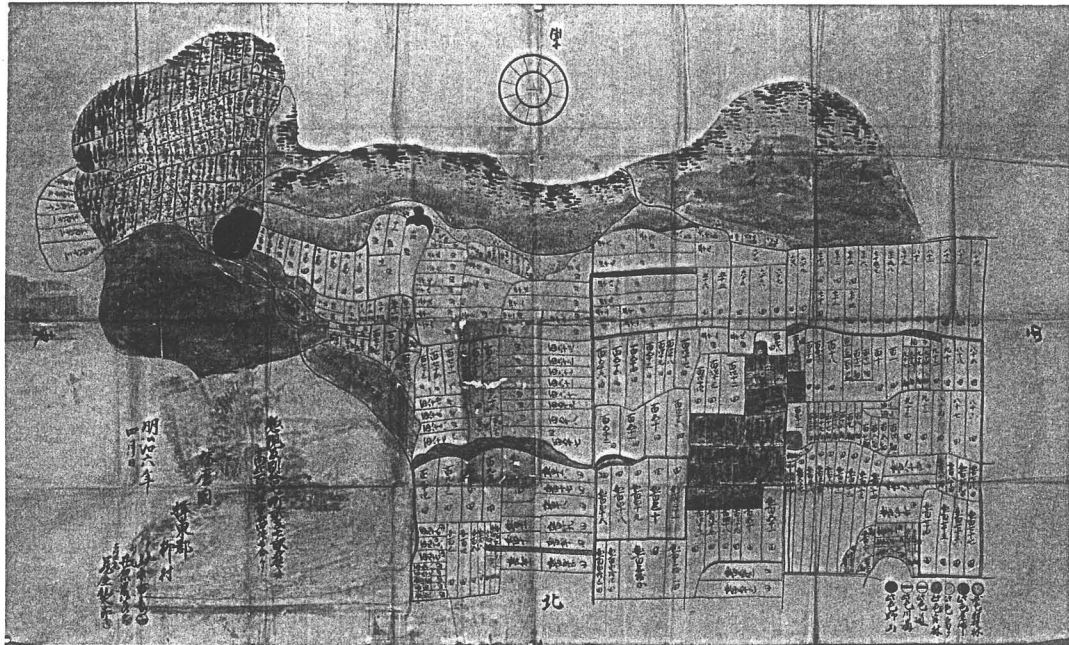


1999年6月

太子町教育委員会

例言

1. 本書は、兵庫県揖保郡太子町佐用岡字大市田 253 番地において実施した、太子町総合運動公園建設に伴う遺跡発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、平成10年10月12日～23日にかけて実施したものである。
3. 調査は、揖保郡太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課三村修次、海野浩幸が担当した。
4. 調査にあたっては、太子町シルバー人材センターの協力を得た。
5. 整理作業にあたっては、井上道子、岩村千穂、改発法子、藤井昭子、中村豊子の協力を得た。
6. 基準点測量は、喜多村測量株式会社に委託した。
7. 本書で示す標高値はT. P. を、座標は国土座標第V系を基準とした。
8. 出土遺物観察表の色調は、日本色研事業株式会社発行の「新版・標準土色帳 1992年版」による。また同表の番号は遺物実測図と一致し、実測番号は出土遺物台帳と一致する。
9. 本書の執筆・編集は、三村修次、海野浩幸が行なった。



柳村絵図 明治6年4月(蔵屋信一氏所蔵 縦94,5cm×横161,5cm)

本文目次

例言

調査に至る経過	1
調査の概要	1
まとめ	7

挿図目次

第1図 調査位置図	1
第2図 トレンチ設定図	1
第3図 遺構配置図	2
第4図 土層実測図	3
第5図 遺物実測図(1)	4
第6図 遺物実測図(2)	5
第7図 遺物実測図(3)	6
第8図 投げ石及び太子伝承地分布地図	8

表目次

表1 出土遺物観察表	7
表2 投げ石及び太子伝承地所在地名表	9

図版

柳村絵図

図版1	上 調査前
	中 調査地全景
	下 T-1
図版2	上 T-1北壁面
	中 T-2
	下 T-2西壁面

南柳遺跡第6次調査

(柳字大市田の投げ石所在確認調査)

1. 遺跡の所在地

兵庫県揖保郡太子町佐用岡字大市田 253 番地

2. 調査機関

兵庫県揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課

三村修次、海野浩幸

4. 調査期間

平成10年10月12日～23日

5. 調査面積

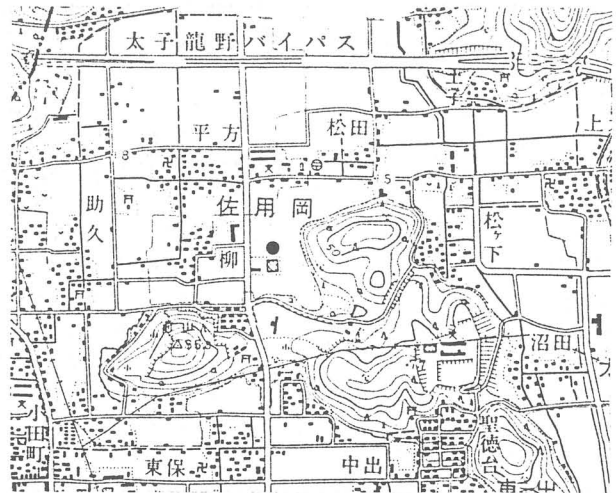
20m²

6. 記録作成

遺構実測図 (1/20)、土層断面実測図 (1/20)

遺物実測図 (1/1)、写真記録 (カラー 35mm・

6×7版、モノクロ 6×7版)



第1図 調査位置図

(国土地理院「龍野」1:25,000)

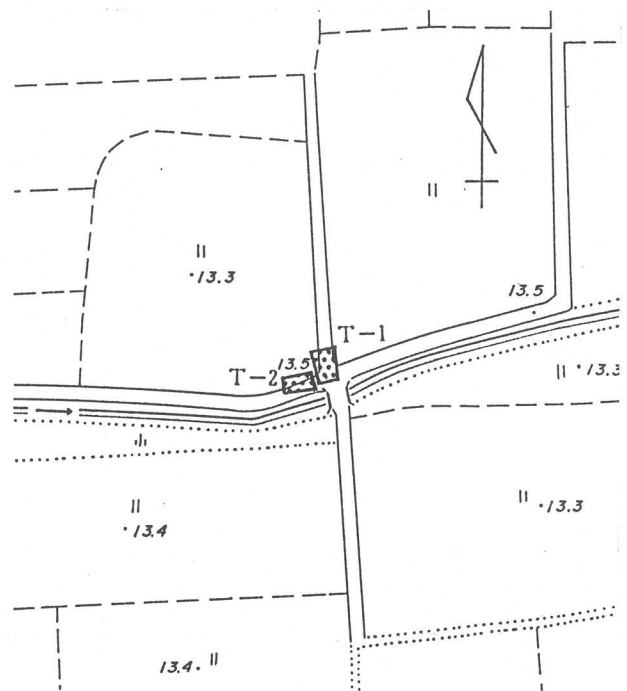
7. 調査に至る経過

昭和61年度より進められている国庫補助事業「鶴庄荘園遺跡詳細分布調査」に伴い、平成2年度に実施された太子町佐用岡・柳地区の現況聞き取り調査において、太子町佐用岡字大市田 253 番地南西隅付近の里道交点には、かつて「投げ石」があったが現在は所在不明であると報告されている。

今回当該地が、太子町総合運動公園建設用地内に含まれることから、「投げ石」の所在確認調査を実施することにした。

調査地の現況は標高13m前後の水田で、周辺は一部公園造成に伴う盛り土が実施されている。

ちなみに「投げ石」が所在したとされる一帯は、かつてドタ（土田・水路と耕地の中間的な性格を有し、遊水地としての機能をもつ。）の中であり、普段は泥の下であったという。

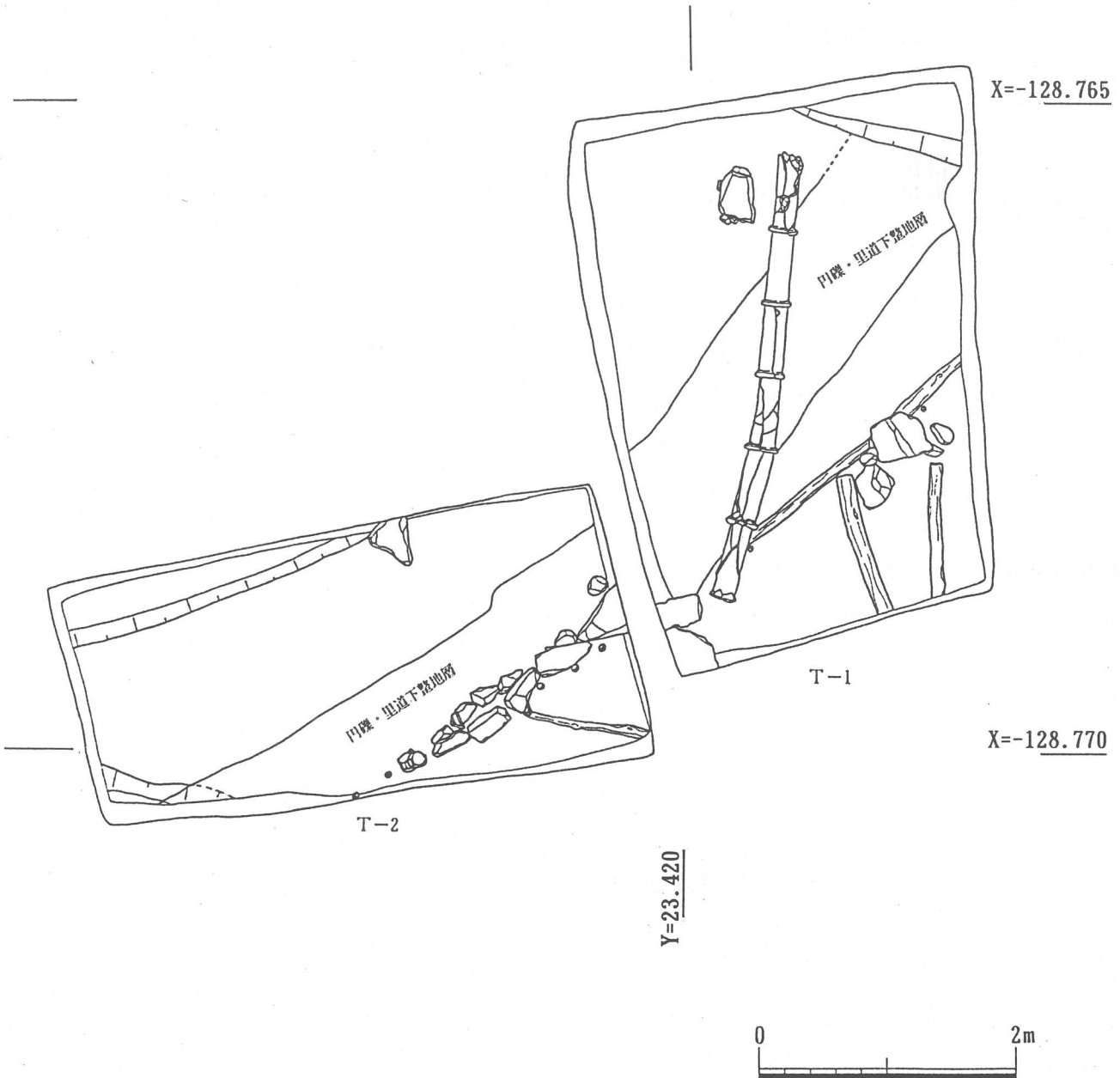


第2図 トレンチ設定図 (1:1,000)

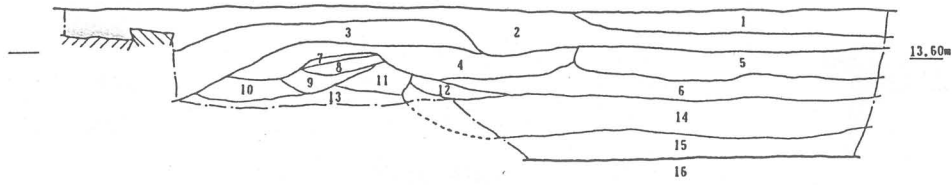
8. 調査の概要

調査は、「投げ石」が所在したと推定される里道の交点に2×4mのトレンチを2本設定して実施した。調査の結果、里道交点部分で近年まで用いられていた田水落とし用の土管と、里道南を流れる用水路

の護岸用石垣及び杭列を検出しただけで、「投げ石」及びそれに関する遺構は検出されなかった。出土遺物については、里道整備に伴うプラスチック・ガラスを交えた近現代の陶磁器片・瓦がほとんどを占め、南柳遺跡に関連する須恵器・土師器・青磁片が少量含まれるだけであった。

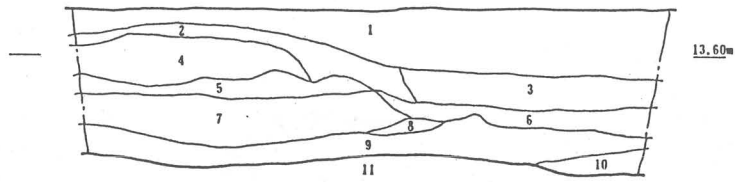


第3図 遺構配置図



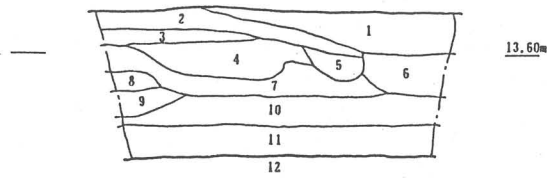
- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. 公園造成盛土 | 9. 褐灰色粘質土・旧里道盛土 |
| 2. 表土 | 10. 灰色粘質土・旧里道盛土 |
| 3. 黄褐灰色粘質土・里道盛土 | 11. 黄色岩崩土・旧里道盛土 |
| 4. 褐灰色土（円礫・瓦混じり）・現里道盛土 | 12. 明灰色粘質土・旧里道盛土 |
| 5. 褐色土（岩崩土混じり）・現里道盛土 | 13. 円礫・里道下層地層 |
| 6. 灰色粘質土・旧耕土 | 14. 黄灰色粘質土 |
| 7. 灰色土・旧里道盛土 | 15. 淡褐灰色粘質土 |
| 8. 黄灰色土・旧里道盛土 | 16. 黄褐色粘質土・地山 |

T-1 西壁面



- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 公園造成盛土 | 7. 黄灰色粘質土 |
| 2. 表土 | 8. 灰褐色土（円礫混じり） |
| 3. 耕土 | 9. 淡褐灰色粘質土 |
| 4. 褐色土（岩崩土混じり）・現里道盛土 | 10. 灰色粘質土（細砂混じり） |
| 5. 灰色粘質土・旧里道盛土 | 11. 黄褐色粘質土・地山 |
| 6. 灰色土・旧耕土 | |

T-1 北壁面

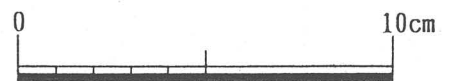
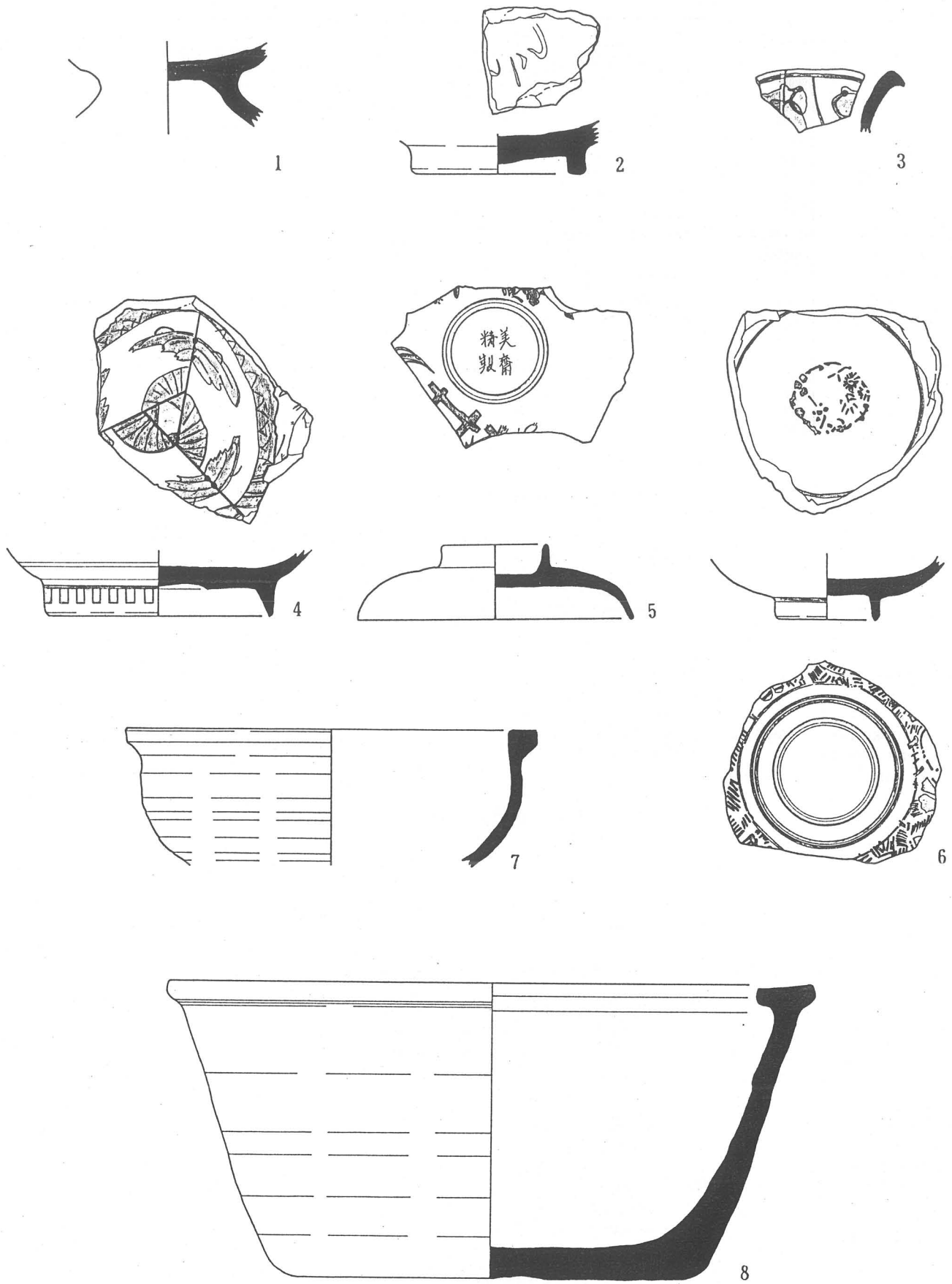


- | | |
|----------------------------|----------------|
| 1. 公園造成盛土 | 7. 灰色粘質土・旧里道盛土 |
| 2. 表土 | 8. 黄色岩崩土・旧里道盛土 |
| 3. 淡褐色土・現里道盛土 | 9. 褐灰色土 |
| 4. 褐灰色土（円礫・瓦・岩崩土混じり）・現里道盛土 | 10. 黄灰色粘質土 |
| 5. 灰色土 | 11. 淡褐灰色粘質土 |
| 6. 耕土 | 12. 黄褐色粘質土・地山 |

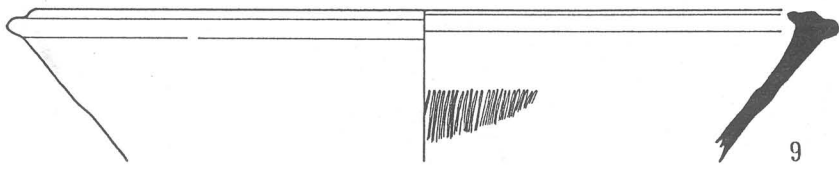
T-2 西壁面



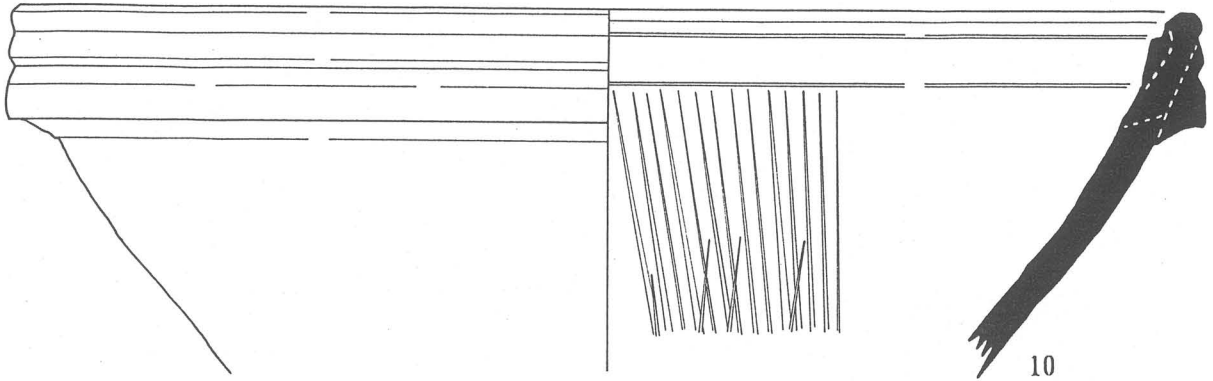
第4図 土層実測図



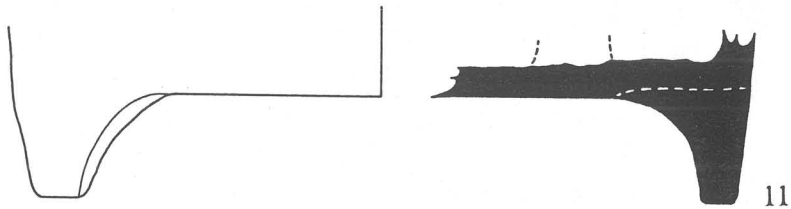
第5図 遺物実測図(1)



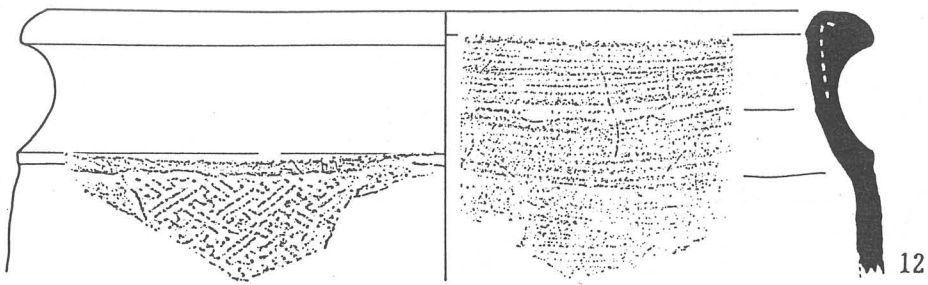
9



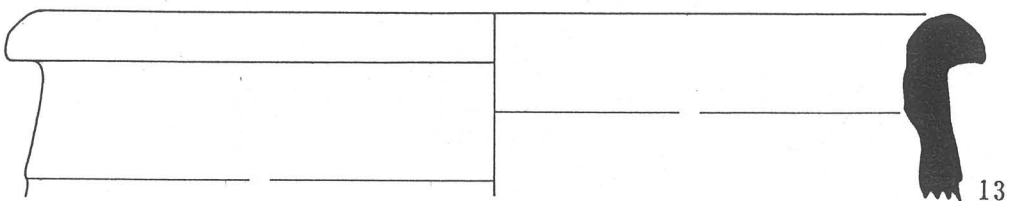
10



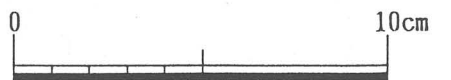
11



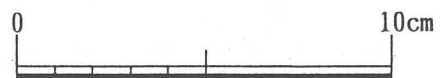
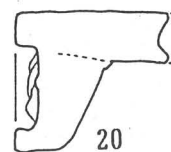
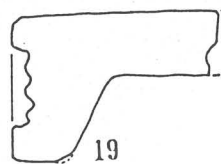
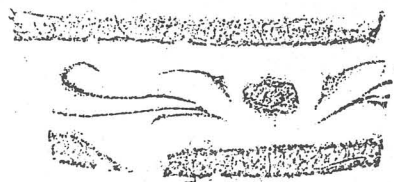
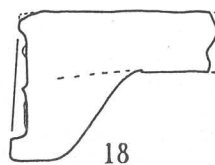
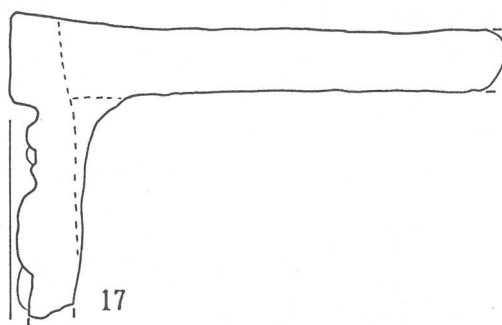
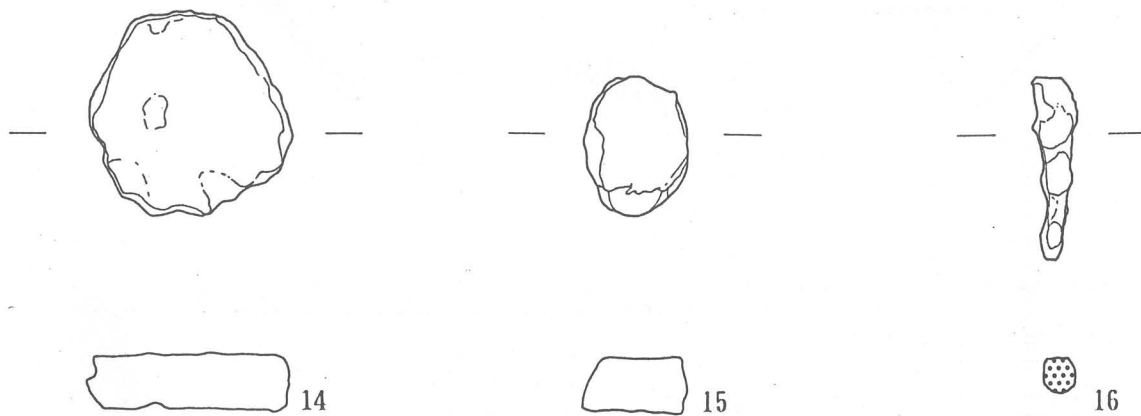
12



13



第6図 遺物実測図(2)



第7図 遺物実測図(3)

No.	実測番号	器種	法量 (cm)	調整	色調	胎土	備考
1	9801-2-1	須恵器 高坏		ナデ 内底面同心押印	灰色 N5 ~ N6	細砂粒を含む	
2	9801-1-15	青磁 碗		高台内露胎 劃花文	胎土-灰白色 2.5YR7/1 釉-明緑灰色 10GY7/1	密	
3	9801-1-16	染付け磁器 鉢			胎土-灰白色 N8	密	焼き接ぎ 肥前焼き系
4	9801-1-19	染付け磁器 碗		高台内蛇の目状に釉かき 取り	胎土-灰白色 10Y8/1	密	肥前焼き系
5	9801-1-18	染付け磁器 碗蓋	口径 10.0 器高 2.7		胎土-灰白色 N8	密	肥前焼き系
6	9801-1-17	染付け磁器 碗		高台端部露胎	胎土-灰白色 N8	密	印判手
7	9801-1-20	施釉陶器 鉢	口径 12.8		胎土-黄灰色 2.5Y6/1 釉-オリーブ色 5Y5/4	密	
8	9801-1-8	施釉陶器 鉢	口径 19.2 器高 10.6	外底面糸切り後ナデ 外内面胴部施釉	外内底部-橙色 2.5YR6/1 釉-褐色 7.5YR4/3	1~2mmの砂粒・小石を 多く含む	丹波焼
9	9801-1-9	施釉陶器 摺鉢	口径 19.6	卸目 8本/1単位	胎土-黒褐色 2.5Y3/1 釉-黒褐色 10YR3/1	密	
10	9801-1-10	無釉陶器 摺鉢	口径 30.0	外-ヘラ削り 卸目 9本/1単位	外-鈍い赤褐色 5YR5/4 内-鈍い赤褐色 2.5YR5/4	1~4mmの砂粒・小石を 含む	丹波焼
11	9801-1-11	施釉陶器 焔炉		外底面-ナデ 内-ナデ 底部脚張り付け	胎土-鈍橙色 5YR7/6 釉-明赤褐色 2.5YR5/8	細砂粒を含む	内底面に砂粒、煤 付着
12	9801-1-12	瓦質土器 火入れ	口径 20.0	外-ミガキ、胴部幾何学 紋様スタンプ 内-ハケ目	暗灰色 N3	密	
13	9801-1-13	瓦質土器 火入れ	口径 23.0	外-ミガキ 内-ナデ	黒色 N2	1~2mmの砂粒・小石を 含む	
14	9801-1-6	土製品 面子	径 5.4×5.5 厚さ 1.5		灰白色 5Y7/1	密	平瓦転用
15	9801-1-7	土製品 面子	径 2.8×3.7 厚さ 1.4		灰色 N4 ~ 暗灰色 N3	密	平瓦転用
16	9801-3-1	鉄釘					
17	9801-1-1	軒丸瓦	径 15.0	凸-ミガキ 凹-布目痕、瓦当裏面ナ デ	灰色 N5 ~ N6	密	左巴文
18	9801-1-3	軒平瓦	幅 3.9	ナデ	灰色 N4	密	
19	9801-1-5	軒平瓦	幅 3.8	ナデ	灰色 N5	密	
20	9801-1-4	軒平瓦	幅 3.7	ナデ	灰色 N4	密	

表1 出土遺物観察表

9. まとめ

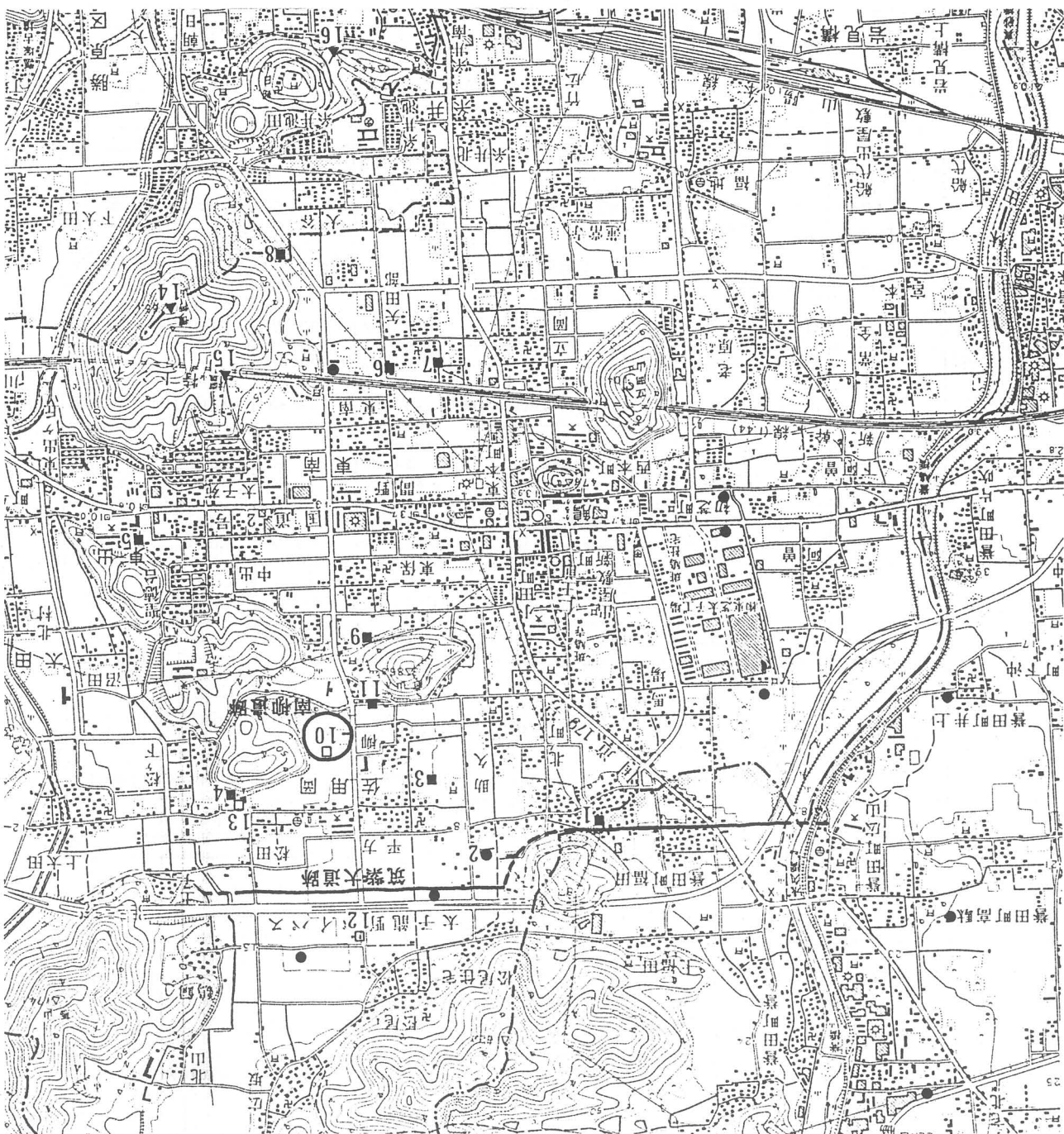
調査の結果、「投げ石」の所在を示す遺構は全く検出することはできなかった。近年の里道整備や、土管の埋設等の攪乱により失われたものと考えられる。

柳字大市田の「投げ石」自体にこれといった伝承が無かったことも他の「投げ石」のように保存されず、その所在を不明確にさせたことの要因であろう。また調査地の土層は、軟弱な粘質土で構成され、現況聞き取り調査での周辺の状況を裏付ける結果を示しており、このことも据え付け痕等の遺構を残さなかったことの一因と考えられる。

- 1. 鵜の投げ石
- 2. 桜ヶ坪の投げ石
- 3. 平方の投げ石
- 4. 松ヶ下の投げ石
- 5. 東出の投げ石
- 6. 東南の投げ石
- 7. 矢田部の投げ石
- 8. 大谷の投げ石
- 9. キツネ岩
- 10. 柳字大市田の投げ石
- 11. 柳字前田の投げ石
- 12. 松尾字南向の投げ石
- 13. 鵜荘・太田荘境界石
- 14. 駒蹄岩
- 15. 感動岩
- 16. 太子の足跡

第8図 投げ石及び太子伝承地分布地図

●=鵜荘『嘉暦・至徳』絵図記載の榜示 ■=投げ石 □=所在不明及び消滅 ▲=太子伝承地



No.	名 称	所 在 地	法 量	材 質	備 考
1	鰯の投げ石	鰯字北山根1026	基部は上底40cm、下底55cm、高さ65cmの台形状の平面形 現高102cmの角錐状	凝灰岩	元位置を保つ 県指定文化財(昭46.4.1) 遺跡番号200
2	桜ヶ坪の投げ石	佐用岡字桜ヶ坪712	幅60cm 水路底からの高さ約36cm	凝灰岩	元位置を保つ 『鰯荘絵図』記載の標示と唯一場所が一致する。 遺跡番号204
3	平方の投げ石	佐用岡字宮ノ本676	幅94cm×75cm 水路底からの高さ約60cm	花崗岩	元位置を保つ 県指定文化財(昭46.4.1) 遺跡番号201
4	松ヶ下の投げ石	松ヶ下字岩ヶ町184	幅180cm×137cm 現高約100cm	凝灰岩	現在地より約60m北の水田中にあったものを、昭和60年に現在地に移転。 遺跡番号205
5	東出の投げ石	東出字旗ノ前3-3	A 幅116cm×105cm 現高約85cm、 矢穴2ヶ所有り。 B 幅136cm×100cm 現高約75cm	凝灰岩	現在地より約15m西の水田畔にあったものを、昭和41年に東出荒神社境内に移転したが、昭和57年同神社移築に伴い現在地に再移転。 県指定文化財(昭46.4.1) 昭和57年度兵庫県埋文調査年報 遺跡番号203
6	東南の投げ石	東南字田屋146-3	幅50cm×50cm 現高約48cm	凝灰岩	現在地より約57m西の水田畔にあったものを、昭和30年に現在地に移転。 県指定文化財(昭46.4.1) 遺跡番号202
7	矢田部の投げ石	矢田部字小倉221 徳道上人堂裏	A 幅70cm×70cm 現高約50cm B 幅90cm×64cm 現高約58cm	凝灰岩	元の所在地不明
8	大谷の投げ石	姫路市勝原区大谷字 大谷口	幅90cm×76cm 現高約50cm	凝灰岩	元位置を保つ
9	キツネ岩	東保字神田253	幅90cm×156cm 高さ80cm	凝灰岩	『聖徳太子が檀特山から指一本で投げたもの』という伝説をもつ。 上部30cm程度が地表に露出していたが、宅地造成に伴い調査後、元位置で埋め戻す。 『播磨国鰯荘現況調査報告』Ⅲ 文化財資料21 遺跡番号54
10	柳字大市田の投げ石	佐用岡字大市田253			所在不明 『播磨国鰯荘現況調査報告』Ⅳ
11	柳字前田の投げ石	佐用岡字前田25			動かすとなたりがあると云えられている。町道拡幅のため路線敷となっている。 『播磨国鰯荘現況調査報告』Ⅳ
12	松尾字南向の投げ石	松尾字南向394			町道拡幅のため撤去された。 『播磨国鰯荘現況調査報告』Ⅳ
13	鰯荘・太田荘境界石	松ヶ下字岩ヶ町188 付近			『平方・同出屋敷村・柳村入会図』山本国男氏所蔵 所在不明
14	駒蹄岩	檀特山頂		自然岩 凝灰岩	山頂の巨岩に馬の蹄の形をしたへこみがあり、『太子の乗った馬が付けた』という伝説をもつ。 法隆寺所蔵鰯荘絵図『嘉曆図』に「行道岡」、「黒小馬口」、「口馬糞松」と記載。同絵図『至徳図』には「行道岡」、「黒小馬蹄跡」、「小馬口松」と記載。 『峰相記』には「檀特カ峯ト云、行道ノ峯ニ御馬ヲツナカル、其松近マテ有ケリ」と記載。
15	感動岩	東南 檀特山西北山麓		自然岩 凝灰岩	『太子の説法に感動して山頂から現在の場所まで移動した』という伝説をもつ。 「太田村郷土資料」他
16	太子の足跡	姫路市余部区和久 和久山墓地内			『太子の投げたもので、その上に1個の凹所があり、それは太子の足跡である』という伝説をもつ。所在不明 「兵庫縣石海村史」他

*番号は「第8図 投げ石及び太子伝承地分布地図」と一致する。備考欄の遺跡番号は「太子町蔵文化財・遺跡分地図及び地名表」と一致する。

表2 投げ石及び大使伝承地所在地名表



調査前（東から）



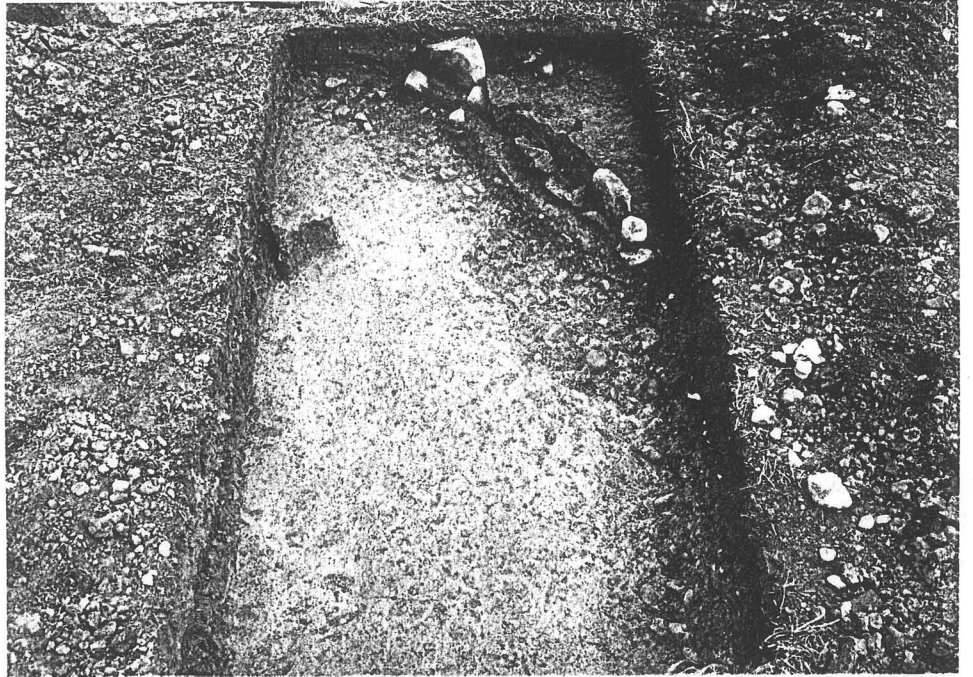
調査地全景
（東から）



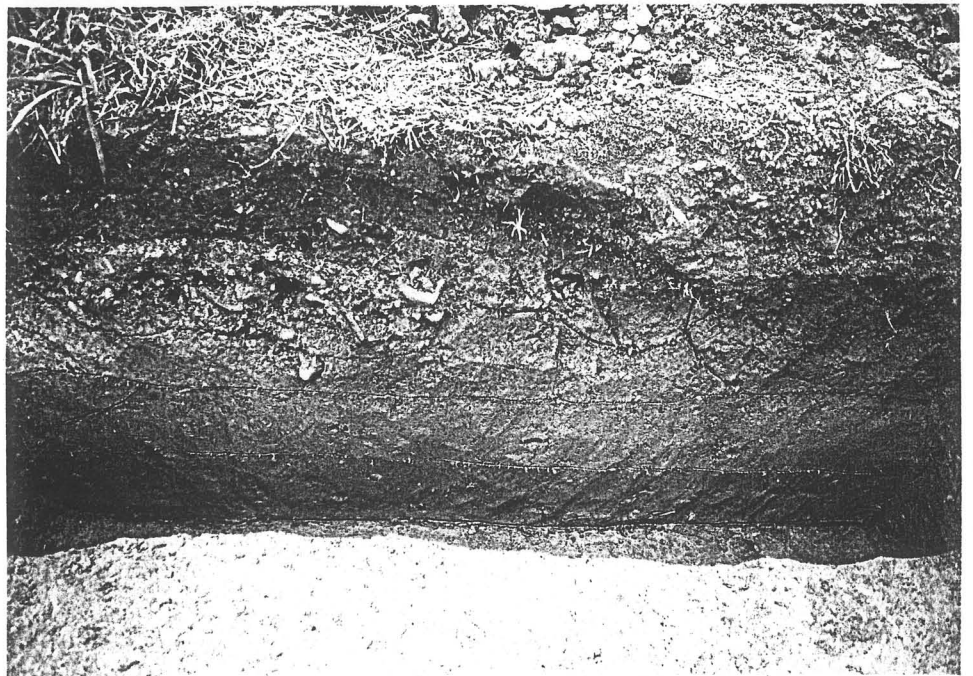
T-1（東から）



T-1 北壁面



T-2 (西から)



T-2 西壁面

報告書抄録

ふりがな	みなみやなぎいせきだい6じちょうさ (やなぎあざおおいちだのなげいししよざいかくにんちょうさ)							
書名	南柳遺跡第6次調査 (柳字大市田の投げ石所在確認調査)							
副書名	太子町総合運動公園建設に伴う遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	太子町文化財資料							
シリーズ番号	第62集							
編著者名	三村修次 海野浩幸							
編集機関	太子町教育委員会							
所在地	〒671-1561 揖保郡太子町鶴1369-1 TEL. 0792-77-1010							
発行年月日	西暦 1999年6月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃	東経 〃	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みやなぎ 南柳遺跡	みやなぎいせき 揖保郡太子町佐川岡 字大市田253番地	284645	450026	34度 50分 20秒	134度 35分 21秒	1998.10.12 ～ 1998.10.23	20m ²	運動公園建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
南柳遺跡	集落 荘園	弥生・古墳 中世			近・現代陶磁器、瓦			

